": No Subtitle"

加納 俊輔、髙柳 恵里、早川 祐太、松延 総司 Shunsuke Kano, Eri Takayanagi, Yuta Hayakawa, Soshi Matsunobe

2013年11月16日(土)~ 12月21日(土)

レセプション: 2013年11月16日(土) 18:00 - 20:00

[会 場] ハギワラプロジェクツ

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-18-2 サンビューハイツ新宿 101 T/F 03 6300 5881 M: info@hagiwaraprojects.com www.hagiwaraprojects.com 京王新線・都営新宿線 初台駅東口より徒歩 5 分/新宿駅南口より徒歩 15 分/都営大江戸線都庁前より徒歩 12 分 火曜日~土曜日 12:00 - 19:00 (日、月、祝日休廊)

[協 力] Maki Fine Arts, Super Window Project

- - - - -

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、11 月 16 日(土)より、4 名の作家(加納俊輔、髙柳恵里、早川祐太、松延総司)による展覧会「: No Subtitle」を開催する運びとなりました。それぞれ新作もしくは近作の作品の発表となります。

加納俊輔は、身近な風景やありふれたモチーフを撮影した写真を使い、デジタル処理や立体と組み合わせること新たな意味を生じさせる作品を制作します。被写体の意味や作家の意図が複雑に交錯する画面は、表面的に見える像の解釈を遠ざけ、鑑賞者の見解を別の視点へと促します。

早川祐太は、普段意識することのない現象や自然法則を、さまざまな素材が持つ特色にゆだね、作品として視覚化させます。自身の重力と撓みによってちょっとした震動で左右に揺れる鋼の作品など、無防備である私たちを客観視するような作品を展開します。

松延総司は、世界の成り立ちへの深い興味と考察を元に、主にインスタレーションやサイトスペシフィックな作品を展開 しています。ある「法則」や「技法」、「素材」などを再構築し、私たちが既知であるとする知識に混乱を生じさせます。

髙柳恵里は、 日常的な物についてその意味を一旦白紙に戻し、そこから「物」との関係性を作り上げるように作品を制作します。「物」と徹底的に向き合うことで生み出される作品は、何ものにも消費されない、作家が言うように「どの範疇にも入らない、可能性を感じられる魅力」をもつ孤立した存在となるのです。

4名の作家はそれぞれ違ったアプローチから作品を制作していますが、「物」と向き合いながら作品を制作するという姿勢で共通しています。「物」と関わることによって生まれる新たな関係性そのものを「こと」に置き換え、作品として提示すること、そして出来事や、パフォーマンスという要素に左右されない、私にも他者にも回収されない、そこにただ「ある」という状態を生み出そうとしています。その作品は、アートが本来持つ、何かに繋がっていくような広がりを持つ自由さを内包しているのです。



加納俊輔 「specious notion_06」 2013、594×841mm タイプ C プリント Courtesy of Maki Fine Arts

加納 俊輔 Shunsuke Kano http://kanoshunsuke.net/

1983 年大阪府生まれ。京都府在住。 2010 年京都嵯峨芸術大学大学院芸術研究科 修了。主な展覧会に、「第8回 shiseido art egg」(予定)(2014 年、資生堂ギャラリー、東京)「バウムクーヘンとペタっとした表面」(2012 年、Maki Fine Arts、東京)、「加納俊輔・高橋耕平展『パズルと反芻』"Puzzle & Rumination"」(2012 年、 island MEDIUM、NADiff window gallery、実家 | JIKKA、東京)、「第15回岡本太郎現代芸術賞展」 (2012 年、川崎市岡本太郎美術館、神奈川)、「SHOWCASE#1 curated by minoru shimizu」(2012 年、eN arts 、京都)、「Redefining the Multiple:13 Japanese Printmakers」(2012 年、Ewing Gallery、 UT Downtown Gallery 、テネシー、アメリカ)、「ワープトンネル」(2011年、Gallery PARC、京都)、「CANON:写真新世紀 2011東京展」(2011、東京都写真美術館、東京)など。



高柳恵里 「自由なカーテン」 2013、サイズ可変 カーテン、テープ T&S GALLERY 撮影:森政俊

髙柳 恵里 Eri Takayanagi

1962 年神奈川県に生まれ。東京都在住。1988 年多摩美術大学大学院美術研究科修了。1990-91 年、 イタリア政府給費留学(ミラノ国立美術学院)主な展覧会に、「MOT Collection つくる、つかう、つかまえる - いくつかの彫刻から」(2013 年、東京都現代美術館、東京)、「不意打ち」(2013 年、Time & Style MIDTOWN、東京)、「高柳恵理展」(2012 年、See Saw gallery + café、名古屋)、「9th Art Program Ome 2011 山川の間で」(2011 年、吉川英治記念館、東京)、「このようにしてあると思える突然の瞬間」(2011 年、藍画廊、東京)、「20 世紀美術探検ーアーティストたちの三つの冒険物語ー」(2007 年、国立新美術館、東京)、「Mot コレクション 1920 年代の東京 / 1960 年代以降の美術」(2005 年、東京都現代美術館、東京)、「近作展 28 高柳恵里」(2003、国立国際美術館、大阪)、「心の在り処」(2003 年、ルードヴィヒ美術館、ハンガリー・ブダペスト)/モスクワ市現代美術館、モスクワ)、「MOT アニュアル 1999 ひそやかなラディカリズム」(1999 年、東京都現代美術館、東京)、「VOCA 展 '99 現代美術の展望ー新しい平面の作家たち」(1999 年、上野の森美術館、東京)、「やわらかく 重くー現代日本美術の場と空間」(1995 年、埼玉県立近代美術館、埼玉/ライフギャラリー、オハイオ)、「彫刻の遠心カーこの十年の展開」(1992 年、国立国際美術館、大阪)、「CURATOR'S EYE vol.2」(1991 年、ギャラリーNW ハウス、東京)など。



早川祐太 「float」 2013、 350 x 120 x 100 mm 鋼、クランプ、木 © Yuta Hayakawa

早川 祐太 Yuta Hayakawa

1984 年岐阜県生まれ。東京都在住。2010 年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了。主な展覧会に、「i」(2013年、HAGIWARA PROJECTS、東京)、「ボトルシップ・ラプソディー 14の彫刻」 (2013年、プラザ・ギャラリー、仙川、東京)、「フィジカルの速度/PHYSICAL KINETICS Oyama Enrico Isamu Letter/ Yuta Hayakawa」(2012年、Takuro Someya Contemporary Art、東京)、「: discovery」(2011年、Art Center Ongoing、東京)、「複合回路Vol.2早川祐太」(2010年、gallery αM、東京)、「Essential Ongoing」(2011年、新・港村ギャラリー、横浜)、「5th Dimension」(2010年、フランス大使館旧庁舎、東京)、「from/to #5」(2009年、Wako Works of Art、東京)、「Re:Membering - The Next of Japan」(2009年、Alternative Space LOOP、ソウル、韓国)、「NO FUTURE, NO FUTURE」(2009年、Art Center Ongoing、東京)、「アートプログラム青梅」(2008年、青梅市街、東京)など。



松延総司 「Direction of Materials」 2010、サイズ可変 紙、インクジェットプリント © SOSHI MATSUNOBE. Courtesy, Super Window Project

松延 総司 Soushi Matsunobe http://matsunobe.net/

1988年熊本県生まれ。京都府在住。2008年京都嵯峨芸術大学短期大学部卒業。主な展覧会に、「SCHEMA, Kyoto.Koln」 (2012年、Schilling Arkitekten x Super Window Project、ケルン、ドイツ)、「VERLANGSAMTE PERFORMANCE」 (2012年、VAN HORN, デュッセルドルフ、ドイツ)、「UNE FENETRE JAPONAISE」 (2011年、Galerie de Multiples、パリ、フランス)、「神戸ビエンナーレ2011高架下アートプロジェクト」(2011年、神戸市元町高架通り、兵庫)、「岡本太郎現代美術賞」(2011年、岡本太郎美術館、神奈川)、「Direction of Materials」(2010年、Super Window Project & Gallery、京都)、「Nissed」(2010年、ART OSAKA、大阪)など。